

おいでん・さんそんSHOW

8・9月
合併号
2017.9.1発行



撮影/佐伯明美さん

特集 | 豊田舎移住計画がスタート

車だけじゃない。しっかり田舎がある豊田をPR!

第2回地方の暮らしフェアの出展には、センタースタッフの他、地域支援課、支所の担当者、名古屋大学大学院国際開発研究科の留学生が参加し、にぎやかにPRした

とよたのいななか
豊田 移住計画
豊田市にはしっかり田舎がある

世界に冠たる自動車メーカーを擁する「車のまち」。これが、豊田市民以外の方がイメージする「豊田」ではないでしょうか。

でも、実際には、広大な森林、清らかな河川などの自然環境があることはもちろん、脈々と自分たちで暮らしを作り上げてきた人々が住む山里があります。

豊田市にはそんな「しっかり田舎」がある。山村への移住を考えている方たちに、その事実を知っていただきたい。おいでん・さんそんセンターは、山村地域の支所と連携し、移住プロジェクト「豊田舎移住計画」を行うことになりました。左側にあるのが、今回のために新しく作成したロゴです。「田」の漢字を豊田の田と、田舎の田の両方で読めるようにしています。また、

た、一番下の緑の部分には「豊田市にはしっかり田舎がある」と謳っています。

この事業では、4つのコンテンツを企画し、8月から12月中旬にかけて行っていく予定です。

①イベント出展
空き家情報バンク制度を利用して、豊田市の山村部に移り住んだ方の前住所を調査してみたところ、豊田市内が50%、県内他市40%、県外が10%でした。この調査結果を受け、名古屋圏の方を中心に、積極的に「プロモーション」することを決めました。

上の写真は、8月25、26日に名駅のウイंकあいちで開催された「第2回地方の暮らしフェア」での1枚です。

過去、移住フェア出展の際、「車のまちじゃないの?何でここにいるの?」と、多くの来場者

2017 第5回
エコビレッジ

センター長のミライのフツに
向かって!

センター長 鈴木辰吉

みよし市出身 北海道大学で酪農を学ぶ青年がセンターに相談に訪れた。豊田市の山村部で「山地酪農」をやりたいのだという。大学を休学してスイスに留学、

復学卒業後「山地酪農」の先駆者、若手県なかほら牧場の中洞正氏に2年間師事し、5年後に豊田市の乳牛6、7頭、牧野10haのファームを開業する。

ジョンを熱く語ってくれた。本気である。

豊かな日本の山を生かした「山地酪農」は、牛の健康、人びとの健康を一番に考える自然の摂理にかなった酪農で、加工品の製造、直売までを一貫して行い、大規模集約型の酪農とは一線を画す持続的な農の営みであるという。

センター開設当初、JA柴田組合長、清水森林組合長と妄想

した「エコビレッジ構想」を彷彿とさせた。かつての農山村は、夏は農、冬は森に入り、人と自然、人と人が結び合い、地域の資源を余すことなく生かす循環型社会であった。農と林のリンケージを再現し、ここに小水力発電や薪ボイラーなどの再生可能エネルギー、最先端のIT技術、電動モビリティなどの科学技術を融合したミライの理想郷「エコビレッジを創ろう」という

夢の構想だった。忙しさにかまけて忘れかけていた構想を青年が思い出させてくれた。このモデルコミュニティには、「山地酪農」とそれに人生をかける青年1ターナーが不可欠に思える。青年が修行を終えてここに帰ってくるまでに、もう一度エコビレッジ構想を練り直してみたいと思う。青年は、志を果たしに、必ずここに戻ってくるだろう。

イベント情報

一般社団法人おいでん・さんそん法人化記念シンポジウム

一般社団法人おいでん・さんそんの法人化を記念して、シンポジウムを行います。メインとなるのは、「内山節氏講演会—結び合う社会と日本の未来—勝ち組・負け組のない社会」皆さまの参加を、心よりお待ちしております。

●日時:2017年9月13日(水)18:00~20:30 ●場所:足助交流館飯盛座(豊田市足助町蔵ノ前16) ●対象:どなたでも先着250名 ●参加費:無料 ●プログラム:17:30開場 18:00開会・あいさつ 18:15基調講演「結び合う社会と日本の未来」~勝ち組、負け組のない社会へ~講師/内山節(哲学者) 19:25パネルディスカッション コーディネーター/高野雅夫(名古屋大学教授) パネラー/内山節/太田稔彦(豊田市長)/澁澤寿一(認定NPO共存の森ネットワーク理事長)/戸田育代(1ターナー移住者)/鈴木辰吉(一社おいでん・さんそん代表理事) ●申込:チラシ裏面でご記入の上、FAX(0565-62-0614)に送信、またはHPより、専用申込フォームを開いてご記入の上、送信ください。 ●問合せ:おいでん・さんそんセンター 電話 0565-62-0610 メール sanson-center@city.toyota.aichi.jp ●主催:おいでん・さんそんセンター、豊田市

その他の情報は、センターHPをチェック!

一般社団法人おいでん・さんそん法人化記念シンポジウム

基調講演「結び合う社会と日本の未来」
~勝ち組・負け組のない社会へ~

日時 9月13日(水)
18:00 ~ 20:30
場所 足助交流館「飯盛座」

1950年 東京都世田谷区生まれ
1970年頃から、東京と群馬県の山村・上野村との2重生活をしている。

主な著書:
森にかよふ道 (1994年 新潮社 著作集収録)
「里」という思想 (2005年 新潮社)
共同体の基礎理論 (2010年 農文協 著作集収録)
内山節のローカリズム原論 (2012年 農文協)
新・幸福論 (2013年 新潮社)

内山節氏
(うちやま たかし)

19:25~ 討論会 「持続可能な社会に向かって」

| | | |
|----------------------------------|-------------------------------------|---|
| コーディネーター 高野雅夫氏 名古屋大学教授 | パネラー 戸田育代氏 1ターナー移住者 | パネラー 澁澤寿一氏 認定NPO共存の森ネットワーク理事長 |
| パネラー 太田稔彦氏 豊田市長 | パネラー 内山節氏 哲学者 前立教大学院教授 | パネラー 鈴木辰吉氏 (一社)おいでん・さんそん代表理事 |

豊田市 企画政策部 企画課 おいでん・さんそんセンター
MAIL:sanson-center@city.toyota.aichi.jp

〒444-2424 豊田市足助町宮ノ後26-2(足助支所2階)
TEL:0565-62-0610(直通) FAX:0565-62-0614
開所時間:午前8時30分~午後5時(土日祝日・年末年始除く)

REPORT 

「農山村の“ほんもの”の体験」

セカンドスクール・夏フリー版4プログラムを開催



あさひ山里ぼうけん遊び隊

8月7日(月)～9日(水)、8月15日(火)～18日(金)「セカンドスクール2017夏フリー版」の4プログラムが、開催されました。

豊田市では子どもの農山村体験をセカンドスクールという形で実施し、「夏フリー版」は、学校が夏休みの日に、希望する子どもたちが農山村体験を行う取組みとして、おいでん・さんそんセンターのセカンドスクール部会が開催しています。

期間中に2回開催された「山っ子くらぶ」は、旭地区の福蔵寺を拠点とし、ブナの原生林歩きやドラム缶風呂など、山の生活を

かしたさまざまな企画が行われました。7～9日は20人、15～17日は18人の子もたちが参加し、子どもたち自身が遊び方から話し合っ決めて、ひとりひとりがしっかり考えのびのび遊んだ3日間が過ごせたようでした。12人のスタッフの方や周辺に暮らすご家族のみなさんも参加し、ケンカもしながら大家族のように遊び、にぎやかに活動していました。この様子から、セカンドスクールが、子どもたちが「農山村のほんもの」の体験をする機会というばかりではなく、世代を超えて共に時間を過ごすことが、ひとりひとりにとって得難い機会となり、地域や子どもたちに元気をもたらしているように感じました。

また、8/7～9に開催を予定していた豊田高専主催の旭地区笹戸町での「みんなでつくる!ドミタウン」では、8、9日は14人が参加、台風の影響で中止となった初日7日に参加を予定していた子どもたちも、11人が9日に参加し、学生32人、教職員11人と、寮生活

の体験や里山散策、ダンボールで組んだ椅子の製作などの体験を行いました。真剣な表情で集中して制作する様子は、ものづくりへの熱意の高さがうかがえ、多分野に渡る人との交流が、子どもたちに様々な可能性を生んでいるようにも感じました。

8/7～9に稲武地区で行われた「山のこどもになる!3日間」では、20人の子もたちが参加し、虫とりに熱中した後、虫の先生のお話を聞いたり、それぞれの農家さんのお宅で野菜の出荷のお手伝いをしたり、動物と触れ合ったり、3日間いっぱい農家体験して帰っていきました。

8/16～18、旭地区の農家民宿ちんちゃん亭で行われた「あさひ山里ぼうけん遊び隊」は、子どもたちが思い思いに過ごすことを大切にされているプログラムです。ピアノを弾く子、料理したい子、虫を捕まいたい子、13人の子もたちと8人のスタッフが、「自由」と「平等」の主旨のもと、何をしてもいいし何もしなくてもいい、そういった環境をつくることで、子どもたちの心が解放される時間をつくられていました。

(田中敦子)



REPORT 

『伐採からはじめる原木しいたけ栽培研修』説明会開催

里山林の活用を目指して企画

7月31日(月)、おいでん・さんそんセンター森林部会が主催する『伐採からはじめる原木しいたけ栽培研修』の説明会を、築羽会館(榎本町)とその近くの雑木林で開催しました。講師は下山地区で35年以上しいたけ栽培に携わる近藤一義さ

ん。年々減少する原木しいたけ生産者の育成と、生活資源として利用されなくなった里山林の活用を目指して企画しました。

しいたけ栽培を生業のひとつにしたい人、森の恵みで豊かな暮らしをつくりたいU・Iターン者向けに募集をしたところ、名古屋市・豊田市内などから10人の希望者が参加いただきました。また、協力を得ている森林組合職員の方々も応援に駆けつけてくださ



いました。研修は約1年間で全6回(計13日)。8月25日から、1人当たりホダ木100本分のしいたけをつくることを目標に実施していきます。(坂部)



説明会の様子



ブースで相談に応じる様子(撮影/佐伯朋美さん)

②ポスターの制作
PRポスターを制作しました。コピーとロゴマークを真ん中に置き、豊田の田舎に暮らす方々の表情がわかる写真を10点周りに配置しています。撮影は、佐伯朋美さん。足助地区に移住したばかりのプロカメラマンです。豊田市内の支所、交流館、山村地域の各集会所の他、名古屋市内の公共施設等にも掲示を予定しています。



ライター講座(撮影/佐伯朋美さん)

| プログラムタイトル | 開催日 | 開催場所 |
|--------------------------|----------|----------|
| 1 田舎に「おいでん」住むと大発見! | 10/22(日) | 足助地区一畑地区 |
| 2 田舎暮らしの体験コース | 11/5(日) | 稲武地区 |
| 3 いなか子育てシミュレーション | 10/9(日) | 稲武地区 |
| 4 稲武女性科生を招いて、お宅訪問&空き家見学 | 11/25(土) | 稲武地区 |
| 5 下山:住もう!田舎暮らしの先輩との本音相談会 | 10/28(土) | 下山地区 |
| 6 小豆原の秋とくまの里の産物の収穫体験 | 11/4(土) | 小豆原地区 |
| 7 田舎暮らしってどんなかんじ? (豊田学区) | 11/29(日) | 足助地区 |
| 8 田舎暮らしってどんなかんじ? (豊田学区) | 10/21(日) | 足助地区 |
| 9 高尾山ハイキングの魅力をすべて見せます! | 12/10(日) | 足助地区 |
| 10 高尾山ハイキングの魅力をすべて見せます! | 12/10(日) | 足助地区 |
| 11 高尾山ハイキングの魅力をすべて見せます! | 12/10(日) | 足助地区 |
| 12 高尾山ハイキングの魅力をすべて見せます! | 12/10(日) | 足助地区 |
| 13 高尾山ハイキングの魅力をすべて見せます! | 12/10(日) | 足助地区 |
| 14 高尾山ハイキングの魅力をすべて見せます! | 12/10(日) | 足助地区 |
| 15 高尾山ハイキングの魅力をすべて見せます! | 12/10(日) | 足助地区 |
| 16 高尾山ハイキングの魅力をすべて見せます! | 12/10(日) | 足助地区 |
| 17 高尾山ハイキングの魅力をすべて見せます! | 12/10(日) | 足助地区 |
| 18 高尾山ハイキングの魅力をすべて見せます! | 12/10(日) | 足助地区 |
| 19 高尾山ハイキングの魅力をすべて見せます! | 12/10(日) | 足助地区 |
| 20 高尾山ハイキングの魅力をすべて見せます! | 12/10(日) | 足助地区 |
| 21 高尾山ハイキングの魅力をすべて見せます! | 12/10(日) | 足助地区 |
| 22 高尾山ハイキングの魅力をすべて見せます! | 12/10(日) | 足助地区 |

いなか暮らし博覧会公式Webサイト
<https://toyota-inaka.com/>

から質問を受けました。今回のフェアでは、「車だけって思ってた!」とストリートに書いたTシャツを着て、来場者を迎えました。2日間を通してブースには、25家族が相談に訪れ、その場で空き家情報バンク登録を決めた方が4名、空き家登録情報を見て、見学をしようという方もいました。

③PR冊子の制作
豊田市の加工品など豊田市の産品を販売。試食タイムでは、いのししハムや地酒を提供し、『しつかり田舎の食の魅力』を十分にPRしてきました。

④いなか暮らし博覧会の開催
興味を持っていただいた方に実際に足を運んでいただくこと



物販ブース(撮影/佐伯朋美さん) PRポスター

企画したのが『しつかり田舎』博覧会。『しつかり田舎で体験する私らしい暮らし』と「あそび」をテーマにした全21の体験プログラムを実施します。

豊田では、『とよたまちさとミライ塾』の開催が決定し、里山、食と農、歴史、産業などに関する様々な体験ができるプログラムが、都市部、山村部を問わずに企画されています。一方、『いなか暮らし博覧会』は、田舎への移住につながるプログラムを束ねて開催することで、移住希望者の注目を集めることを狙っています。

また、実際に山村地域に移住した当事者が企画したプログラムもあり。例えば、「てくてくの庭で二羽二羽トリをさばいて食べようの会」は、旭地区で農業と養鶏を営む方が企画。「一風変わった新ストーブの取付見学&暖かさ体験」は、足助地区で新ストーブ販売をする方が企画しています。体験はもとより、移住者の暮らしが身近に感じられる、魅力的なプログラムになっています。

